

ハルニレ



実を食べる
エゾリス

ほぼ円形の樹冠

四季の観察ポイント

春 葉よりも先に花が咲く



夏 初夏に大量の実がつく



葉の基部は
左右非対称

秋

紅葉するものもあるが、暖地では綺麗に色づかない



冬

冬芽には花芽と葉芽がある



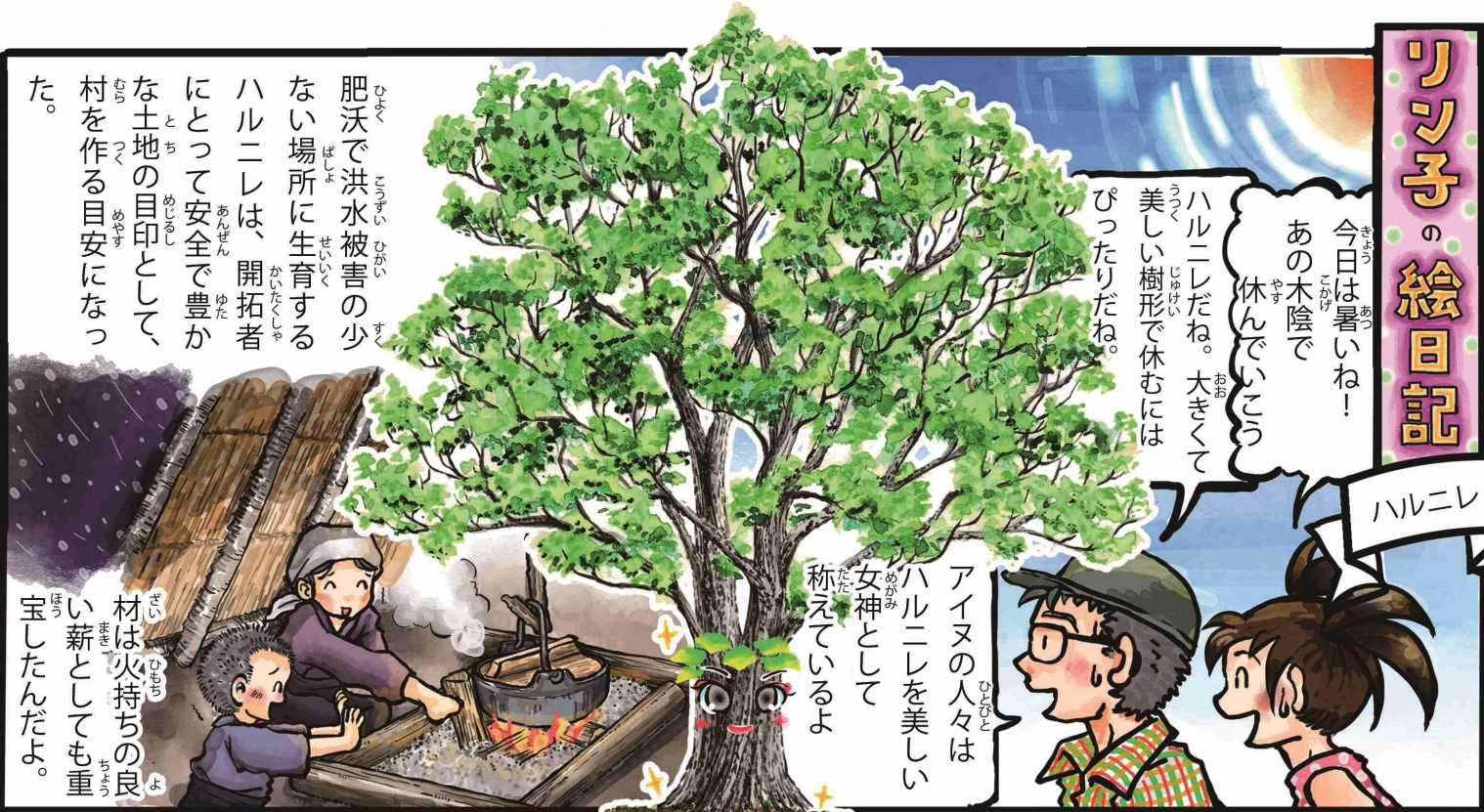
樹皮は灰褐色で縦に細かい割れ目が入る

ニレ科
ニレ属
樹高 30m

エゾシカが好んで樹皮を食べる

ニレ属によく発生する
タモギタケ

リン子の絵日記



今日は暑いね！
あの木陰で休んでいこう

ハルニレだね。大きくて美しい樹形で休むにはぴったりだね。

ハルニレ

アイヌの人々はハルニレを美しい女神として称えているよ

肥沃で洪水被害の少ない場所に生育するハルニレは、開拓者にとって安全で豊かな土地の目印として、村を作る目安になった。

材は火持ちの良薪としても重宝したんだよ。



ニレ属の仲間には全世界の森に分布し、優美な姿から公園などでも親しまれてきた。ところが近年キクイムシの運ぶニレ立枯病が急速に拡大

セシジキクイムシ
海外でニレ立枯病の媒介役となる

ヨーロッパや北アメリカのニレは絶滅の危機にあるんだ。

日本のハルニレはこの病気にある程度抵抗性があるんだ。

頑張れ女神の木！

ハルニレとアイヌの暮らし

ハルニレはアカダモ、ケヤキニレとも呼ばれ、材は重く堅いことから加工は難しいです。しかし粘りがあるため曲木に適し、かつては車輪に用いられました。また、白や杵、太鼓の胴、器具材、家具材等として使われています。

ヌルヌルした樹液は和紙のつなぎとして、また樹皮を叩いて潰したものは榎麵と呼ばれ、瓦の接着剤とされました。

白と杵



アイヌ民族とハルニレ

アイヌの人々はハルニレの材を擦って火を起したため「チキサニ（我ら擦る火）」と呼び、神の位で最高の「火の神」として敬いました。

ハルニレの材を擦って火をおこす



ユカラでは、ハルニレは天上の神々が見られるほど美しい女神とされ、彼女に見とれて空から落ちた雷神との間に人祖アイヌラックルが生まれたとされています。